

## 平成 23 年度 府立福泉高等学校 評価報告書

### 1 めざす学校像

1. 生徒の笑顔が溢れる学校をめざす。  
個々の生徒を大切にして「授業がわかる」「できる」「必要とされている」という気持ちを持ち、掲げた目標に対する達成感や充実感を感じ、自己の存在が認められる等により、自尊心を高め、生徒の笑顔が溢れる学校にする。  
また、福泉高校を愛し、母校にプライドを持つ生徒を育成する。
2. 保護者や地域から信頼され愛される学校をめざす。  
学校周辺の清掃活動やスクールカラー・サポートプラン集中支援事業などとおして地域と連携するとともに、中途退学の防止や懲戒処分者の減少に努め、生徒の規範意識を高めることにより保護者や地域から信頼される学校をめざす。
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校をめざす。  
画一的な教育を改革し、個に応じた教育を行う。生徒の能力を引き出し、適性を見いだすとともに学力の向上と定着をめざすことにより生徒の自己実現をしっかりとサポートする。きめ細かな指導とおして夢と希望を育み、自己実現できる学校をめざす。

### 2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 2 月 実施分]	学校協議会における提言内容
<p>1. 保護者（142名）、生徒（737名）の比較 ※（ ）は保護者アンケート</p> <p>①学校へ行くのが楽しい （子どもは楽しく学校へ行っている様だ） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝64％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝80％</p> <p>②自分の学級は楽しい （子どもは学級を楽しんでいる） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝69％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝71％</p> <p>③分かりやすい授業が多い （子どもは授業を分かりやすいと言っている） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝37％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝49％</p> <p>④評価は日頃の取り組みも含まれていて納得できる （子どもの評価は適切・公平である） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝60％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝65％</p> <p>⑤悩みや相談に応じてくれる先生がいる。 （子どものことについて気軽に相談できる先生がいる） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝40％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝59％</p> <p>⑥学校の決まりやルールをよく守っている （子ども校則や決まりを良く守っている） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝61％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝75％</p> <p>⑦体育大会や文化祭は楽しい。 （子どもは体育大会や文化祭を楽しんでいる） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝74％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝80％</p> <p>⑧国際交流や環境教育は盛んである。 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝43％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝73％</p> <p>⑨福泉高校が好きだ （子どもを福泉高校へ入学させて良かった） 生徒：よくあてはまる＋ややあてはまる＝43％ 保護者：よくあてはまる＋ややあてはまる＝74％</p>	<p>第1回（7/1） ○H23年度学校経営計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 笑顔が溢れる学校を作るためには授業が分からなければならぬ。学校が楽しくなるためにも分かる授業への取組が必要である。基礎学力を伸ばしてほしい。</li> <li>2. 海外交流としてグアムの公立高校と単独で交流をされていることは評価できる。継続することが大切である。</li> <li>3. 外部評価を重視してほしい。</li> <li>4. 土曜日の活用を考えてはどうか。</li> <li>5. 優しさや志を育成してほしい。</li> <li>6. 学校協議会の日に生徒の活動も見せてほしい。</li> </ol> <p>第2回（11/16）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校協議会開催日を生徒の活動に触れるよう、授業や学校行事見学とセットにする。</li> <li>2. コミュニティスクールとして、ホテルの飼育、清掃活動、幼稚園児への図書の朗読、老人ホームとの連携などを一層推進する。</li> <li>3. 生徒の自己実現の具現化として、生徒がPRIDEと自信を持ち、学校生活の励みとなるよう、内部評価（激励、表彰など）、そして外部評価（資格取得、部活動などによる大会やコンクール等へのチャレンジ）を促進する。</li> <li>4. 「いじめ」はあってはならない。そして、いじめが退学の原因になることがあるので、教職員間で情報交換を積極的に行うとともに、保護者との連携も綿密に行う。</li> <li>5. 国際交流は継続することが大切であるし、さらなる発展をめざす。特に、この機会に生徒の英語によるコミュニケーション能力を高める。</li> <li>6. 不登校、長欠が留年の大きな原因となるので、この防止のためにも教育相談活動の充実が必要である。留年防止が退学者の減少にもつながる。</li> <li>7. 校内での修学旅行の実績が活かせるよう、少なくとも向こう3年間はその計画を基本的に継続していく。そして、国際化のますます進展する現状において、国際人となる大きなきっかけである海外修学旅行を実現する。</li> <li>8. 学校が楽しくなるためには、まず「わかる授業」である。基礎学力が定着するための教育課程や授業改善等の創意工夫が必要。</li> <li>9. 実力テスト（学力診断テスト）の結果を活用し、生徒一人</li> </ol>

分析

生徒の「よくあてはある+ややあてはまる」で示される肯定的な割合は高いとは言えない。保護者の回答の方が上回っている。これは、回答して頂いた保護者の人数が少なく、回答した保護者は子どもと学校のことを良く話あっているなど、比較的教養に熱心な方が多かった可能性がある。しかし、生徒の回答で「分かりやすい授業が多い」という設問に対しては肯定的な割合が低いのは厳粛に受け止める必要がある。ただ、生徒による授業アンケートでは、同様の「授業の内容がよく分かる」は1年生89%、2年生93%、3年生93%が肯定的な回答であり、先生の顔を見ながら回答するのとそうでないのとの違いかも知れない。いずれにせよ、今後、各設問の肯定的な意見が多くなるようにして行く必要がある。

ひとりに応じたきめ細かい指導を行い、生徒の得意・特技を活かした進路指導に努める。

就職、進学いずれにしても基礎学力の充実は欠かせないので、放課後や土曜日の補習・講習も考慮する。

そして、英検・TOEFL・漢検・ワープロ検定や大学入試センター試験へのチャレンジを推進する。

- 10. 登下校時、自転車通学のマナーの向上に努める。また、保護者のマイカーによる生徒の送迎について、校内独自のルールを作るなどして事故の防止と近隣施設への迷惑防止を図る。
- 11. 生徒の自主的な活動が豊かになるよう、生徒会全体の活動や部活動の推進を図る。
- 12. 生徒が学校に来たいという取り組みを促進する。生徒の挨拶運動も広げる。
- 13. 学校教育自己診断について、教職員の調査を実施して、生徒・保護者の結果とも比較し、この内容をまとめて公開する。生徒による授業評価を実施し、この結果を授業改善に活用する。

第3回 (2/24)

- 1. 英検、漢検受検等へのチャレンジを継続して推進する。
- 2. 資格取得、部活動などによる大会やコンクール等へのチャレンジを継続して促進する。
- 3. ホタルの飼育、地域の清掃活動、幼稚園児への図書の朗読、老人ホームとの連携などを一層推進する。
- 4. 大学への進学実績を改善する。
- 5. 国際交流は継続することが大切である。
- 6. 自己診断に対しては保護者の回答数(母数)を増やすべきである。授業評価については個別の教員に対する評価が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	取組計画	取組内容の自己評価												
取組み①	学力の向上をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業のあり方を再検討する。 平成22年度末に習熟度別授業に対する総括を当該教科から提出をさせ、それに基づいた改善を図る。</li> <li>・分かる授業の研究及び実施</li> <li>・授業改善の実施 生徒からの授業評価に基づいた授業改善計画を早い時期に提出させて授業改革に取り組む。</li> <li>・24年度実施の教育課程の前倒し実施 平成23年度の入学生とから教育課程を改訂し専門コース及び学校設定教科「教養」を導入するが、平成23年度の2年生、3年生にも改訂の趣旨を活かした授業の実施を働きかける。</li> <li>・学校設定教科「教養」の学習プログラムを開発する。</li> </ul>	<p>今年から1年生の基礎国語も習熟度別の授業で実施している。生徒の評判はよい。到達度の低い生徒に対して分かりやすく授業を行うようになった。</p> <p>今年目標として習熟度別授業は不登校等の長欠生徒を除いて全員に単位修得をさせることをめざしたが、次の通りの不合格者を出してしまった。</p> <table border="0"> <tr> <td>1年生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎国語</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>数学I</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>基礎英語</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学A</td> <td>8人</td> </tr> </table> <p>1年生の数学Iは4単位の内、2単位を習熟度別に行っているが、残りの2単位は習熟度では行っていないため、欠点者を出してしまった。しかし、他の国語、英語の欠点者の人数は少なく、評価点も欠点ぎりぎりであった。目標には到達しなかったが、分かる授業に向けた創意工夫は多々見られ次へのステップとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定教科「教養」のシラバス並びに教材開発は概ね完了できた。開発プロジェクトチームは苦勞していたが目標は達成できた。</li> <li>・就職試験の合格者は1次試験において80%をめざしたが、結果は55%であった。しかし、その後の試験で合格者を増やし、3月1日現在で、就職希望者の就職試験合格率は96%を超えており、最終的な目標には概ね達成できた。</li> </ul>	1年生		基礎国語	3名	数学I	17名	基礎英語	3名	2年生		数学A	8人
1年生															
基礎国語	3名														
数学I	17名														
基礎英語	3名														
2年生															
数学A	8人														

取組み②	<p>進路指導の充実</p> <p>1. 大学進学希望者に対する指導の充実をめざす</p> <p>2. 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」を活用し就職率の向上をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との連携を継続するとともに新規連携校を模索する。 H22年度の取り組みを継続し、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・大成学院大学との連携を継続するとともに強化する。 近畿大学等上記以外の大学へも大学見学会を開催し生徒の進学意識を高める。</li> <li>・保護者に対して奨学金や国の教育ローンの説明会を1学期に実施し、大学進学への資金計画をサポートする。</li> <li>・H24年度からスタートする2つの専門コース及び教科「教養」の教材と学習プログラムを開発する。</li> <li>・「職業適性診断テスト」及び「キャリアカウンセラー」「外部講師」を活用して生徒自身のモチベーションを高め、進路に対する意識を高めるとともに就職支援コーディネーターと進路指導部、第3学年の学年団が協力して就職先の開拓を行う。</li> </ul>	<p>桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・大成学院大学との連携を継続するとともに強化できた。各大学との信頼関係が増加し、いずれの大学からも指定校推薦枠を増やして頂くことが出来た。「大学を知る」という目的でこれらの大学を継続して訪問した。生徒の大学に対する意識は着実に変化している。しかし、今年度は保護者の経済的な落ち込みが激しく、成績優秀者も進学を断念するようなことがあり、進学数は昨年並みにとどまった。目標は達成できなかった。しかし、数年後には大学への進学実績は大幅に改善されると思われる。</p> <p>奨学金の説明会の回数を増やしたところ、昨年の1.5倍の申し込みがあった。進学のサポート体制が構築できた。</p> <p>「職業適性診断テスト」等を実施したところ、生徒自身のモチベーションが高まった。また、進路開拓も昨年以上に進み、3月初めの段階で、就職希望者の就職合格率が96%に達した。年度当初の「目標は指標」は達成できたと思われる。</p>
取組み③	<p>さらなる退学者及び懲戒処分者の減少をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の活性化及び充実 教育相談室の整備 中退防止のためのプロジェクトチーム→中退防止ケア・サポートチームへ中退になりそうな生徒の情報交換と防止の取組を教育相談委員会、中退防止コーディネーターを中心に組織的に推進する。</li> <li>・規範意識の向上生徒理解を推進し、きめ細かな指導を充実させる。</li> <li>・家庭訪問の充実</li> <li>・学年集会の開催（適宜実施）</li> <li>・全校集会の開催（1ヶ月に1回実施を目標とする）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者も年々減少しているが1月末現在で退学者はわずか5名であった。 毎年、年度末の留年に伴う退学があるが、全学年の留年者が昨年40名のところ今年は31名に減少し、それに伴い退学者も大幅に減少する見込みであるので今年度の目標指標である前年比20%の減少は達成できりと思われる。</li> <li>・4月は懲戒処分者が0であった。これは本校始まって以来のことであった。規範意識が高まって来ている。 年度末では28件47人の懲戒処分者となったが、昨年は37件59人であったため年度の目標指標である約20%の減少は達成できた。 この数字は校長訓告も含んだ数字であり、3年前は100人以上の生徒を懲戒処分していたことと比較すると、年々かなりの改善がある。</li> </ul>
取組み④	<p>スクールカラー・サポートプラン集中支援事業の推進（ホタルの人工飼育継続及び発展）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H21年度から開始したホタルの人工飼育を改良し幼虫の生存率を上げる。</li> <li>・えさとなるカワナナの効率的な養殖を開始する。</li> <li>・地元と連携した取り組みに発展させるため「ホタル保存会」（仮称）を設立し、地元の力を活用した事業に発展させ今後の継続性を高める取り組みを行う。</li> <li>・H24年度からスタートする「環境科学コース」を視野に入れた学習プログラムの開発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年6月に1日だけホタル観賞会を実施した。当初は2日間の開催予定であったが雨天のため中止を余儀なくされ、1日開催であったが、午後8時から9時の開催時間に地元から240名の方がお越しになり、環境教育の推進とともに地元貢献になった。</li> <li>・ホタルの人工飼育は非常に難しいが問題点の解明が進み、次年度以降は大幅な改善が期待できるようになった。 3月当初現在でホタルの幼虫は約200匹が育てている。順調に行けば、H24の6月には100匹前後の成虫を乱舞させることが出来そうである。</li> </ul>